



飼い主さん&獣医師の先生が語る!

本当にあった怖いノミ・マダニ被害



被害報告.1

ごく
弧久(ミックス、8歳)



飼い主様:江西憲太郎さん

数日元気がなく食欲もない状態が続き、尿の色も濃くなってしまったのでさすがにおかしいと思い病院へ。結果は、犬バベシア症…。入院し投薬治療を続けました。もうダメだと諦めかけましたが、根気よく治療し一命を取りとめました。それまでマダニがこんなに怖い病気を持っているとは知らず、対策はホームセンターなどで市販されている首輪タイプのものを使うくらい。これまで飼っていた犬も短命だったので、今思うと犬バベシア症だったのかも…。今は、動物病院の薬を毎月必ず投与するようにしています。

担当獣医師のコメント

犬バベシア症は致死率が高く、治療にも高額な費用がかかります。また、ホームセンターなどで市販されているノミ・マダニ駆除薬の多くは動物用医薬部外品。効果や安全性の低いものがあります。それらを不適切な方法で使ったことによる中毒も起こっています。飼い主様の間で、まだまだ意識が浸透していないようです。ノミ間で、まだ意識が浸透していないようです。ノミ予防・マダニ対策は、必ず動物病院で獣医師の判断のもとで行いましょう。

被害報告.2

ジョン(ミックス、15歳)



飼い主様:福井早紀さん

ある夏のこと、ジョンの呼吸が荒く、息から生臭い血の匂いが！目や口、首の周辺、耳の後ろにふくれたマダニがびっしり…。目は充血し、皮膚はただれ、ぐったりして貧血状態のようでした。動物病院でお薬を処方してもらうと、マダニを全て駆除できました。今回、

マダニ対策の必要性と効果を実感。マダニに怯えて暮らすよりも、毎月わずかな費用で安心して暮らせる方を選ぼうと思いました。

担当獣医師のコメント

ノミ予防・マダニ対策をしないでいると、つねにノミやマダニの危険と隣り合わせ。疑心暗鬼で暮らすよりも、月に1回わずかな費用で安心して暮らせる方を選びませんか。ノミやマダニがいない状態をキープするために、動物病院でノミ予防・マダニ対策を。

被害報告.3

チョコ(ミックス、8歳)



飼い主:T.Hさん

散歩から帰ってきた後、しきりに顔をこすっていたので見ると、顔や耳にふくらんだマダニがぶら下がっていました。慌てて動物病院へ行きお薬を処方してもらいました。それまでホームセンターなどで市販されている首輪タイプのもので十分だと思っていたのですが、それらが悪影響を及ぼす可能性があると獣医師の先生から聞き、今では定期的に動物病院へ行くようになりました。おかげで安心して、外で遊ばせることができます。

担当獣医師のコメント

ホームセンターなどで販売される、ノミ取り首輪や、スポットオンタイプのノミ・マダニ駆除薬を使っていているのに「マダニがついた」といって来られる方は多いですね。病院で処方する薬と違って市販薬は持続性があります。薬をなく、何回も投与しないとダメだったりします。薬を口にして中毒を起こす可能性もあるので、獣医師としてはあまりおすすめしていません。

被害報告.4

ゴン(ヒマラヤンのミックス)
テツ、ウニ(共にポメラニアン、4歳)



飼い主:田崎悦子さん

7年前、今は亡き猫のゴンの頭に豆粒大のブヨブヨしたおできのようなものができていました。てっきり「腫瘍」だと思い、病院に駆け込んだんです。なんとそれはマダニ。初めてマダニや感染症の怖さを知つから、犬のテツとウニにも毎月予防をしています。インターネットで薬を買っていたこともあります。今は毎月の予防がしっかりできています。先生のアドバイスももらえる動物病院のウェルネスプランに切り替えました。外が好きな子たちをのびのびと遊ばせてあげられます。

担当獣医師のコメント

「病気にならないためのペットの健康管理」を目指し、各種予防や、検査・健康診断、診察を、年間を通じて行う“ウェルネスプラン”を推奨しています。様々な場所で、ノミ・マダニ駆除薬やペットの病気に関する情報は得られますが、その子の体質や性格に応じた処方は、獣医師にしかできません。ノミ予防・マダニ対策など、予防を通じて定期的に動物病院で診察を受けることの大ささを、飼い主様に啓発しています。

被害報告.5

ミーシャ(シャム猫、5歳)



[写真提供] タムラ中央動物病院 田村 幸生先生

「1週間前から食欲がない」と、動物病院に連れて来られたシャム猫のミーシャ。低体温と脱水、貧血の症状があり、とても危険な状態だったそうです。原因是、猫に犬用のノミ取り首輪を付けたこと。ノミが寄生していたので、飼い主さんが買って付けたものでした。首輪を外し体を洗い、肝臓保護剤を投与。翌日には無事回復しました。

担当獣医師のコメント

この猫がつけていたのはホームセンターなどで市販されているノミ取り首輪で、しかも犬用のもの。毒性が強いものもあるため、皮膚炎を起こす場合や、誤ってかじったりなめたり首輪から揮発するガスを吸い込んだりして中毒になるケースもあり要注意です。ほかにも、飼い主様の自己判断で市販のスポット剤を使用し、体調を崩してしまった猫の例もありました。ノミ予防・マダニ対策は必ず獣医師に全身状態を診てもらい、適切な対応の指示を受けましょう。